

地域の子どもたちの交流の場であり、遊びを通して、自主性や社会性をはぐくむ児童会館。小学生の遊び場というイメージが強いかもしれませんが、子育て支援の場として、地域の人と人をつなぐパイプ役として赤ちゃんから大人まで幅広く利用されています。今月号では、この児童会館の活動の様子についてご紹介します。



特集

児 童 会 館

子どもたちの遊びの城

児童会館は、地域の子どもたちの交流を深めることを目的とした施設。保護者同伴の乳幼児から高校生まで誰もが自由に遊ぶことができ、学校や年齢の違う子どもたちが一緒に遊べることも一つの大きな特徴です。

一日の中で、児童会館が最も活気づく午後。「こんにちはー！」という元気な声とともに、学校から帰った子どもたちが次々に児童会館を訪れます。「大きいお兄ちゃん、お姉ちゃんと遊びたい」と、訪れる幼児もいます。

子どもたちにとってここは遊びの城。来館した子どもたちは、オセロや将棋などのボードゲームで友達と対戦したり、こまやけん玉といった昔遊びを楽しんだり。折り紙や塗り絵、ブロック遊びも大人気です。体育室で、思いつきり体を動かして汗を流す子もいれば、図書室でじっと本を読む子も。

そんな中、歌やスポーツ、工作などのクラブを結成し、一つのこと継続して取り組んでいる子どもたちもいます。「ブラックタートルズ」は東札幌児童会館で活動しているドッジボールのクラブ。小学三～六年生十二人が、週一回集まり、年三回行われる公式試合に向けて、本格的な練習に汗を流しています。

行事も盛りだくさん

スポーツ大会、工作会、お泊まり会など、四季折々の行事も盛りだくさん。内容も、

地域性や子どもたちの希望により、各会館で工夫を凝らしています。最近では、親子で参加できる行事も増えてきました。

中には、子どもたち自らスタッフがなり企画運営をするものもあります。スタッフになった子どもたちは、「どうしたらみんなに楽しんでもらえるか」ということを真剣に考え、何日もかけて準備に取り組みます。当日は、案内や受け付け、司会など、責任を持って役割を担います。

また、地域に根差した行事もいっぱい。北郷児童会館で毎年行われている「北郷児童会館まつり」や、「もちつき大会」には、約三百人もの地域の方が参加しています。

世代間交流も活発で、東白石児童会館では、毎年八月に地元の老人クラブと交流。室内ボウリングやトランプなどのゲームを行い、毎年大いに盛り上がるそうです。近隣の老人施設を訪問している会館もあります。

児童会館は、子どもたちが自発的に行動し、自主性や社会性、創造性をはぐくむ場。そのため、行事への参加も強制ではなく、何をして遊ぶか子どもたちの自由です。